

令和4年度第2回安曇野市生涯学習推進市民会議概要

1	審議会名	安曇野市生涯学習推進市民会議
2	日 時	令和4年8月22日(月) 午前10時から正午まで
3	会 場	安曇野市役所 大会議室
4	出席者	猿田みさ子委員(会長)、丸山明男委員(副会長)、高橋みち子委員、赤羽敦子委員、 荻原義重委員、筒井年恵委員、池田安宏委員、伊藤政江委員、浅見郁子委員
5	市側出席者	矢口教育部長、危機管理課小林担当係長、人権共生課財津課長、 地域づくり課金子担当係長、環境課丸山担当係長、福祉課丸田担当係長、 健康推進課細田副参事、高齢者介護課熊井係長、スポーツ推進課杉浦担当係長、 学校教育課古幡教育指導員、学校教育課城之内主査、文化課逸見担当係長、 文化課奈良澤課長補佐、子ども家庭支援課山岸係長、子ども家庭支援課古畑係長、 生涯学習課深澤課長、生涯学習課遠藤係長、生涯学習課内山係長、生涯学習課中村主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和4年9月2日

協 議 事 項 等

会議概要

- 1 開 会 丸山副会長
- 2 あいさつ 猿田会長、矢口教育部長
- 3 協議事項
(1) 第2次安曇野市生涯学習推進計画改訂版の施策(案)について
(2) 第2次安曇野市生涯学習推進計画に係る令和4年度施策指標及び成果指標について
- 4 その他
- 5 閉 会 丸山副会長

協議事項

- (1) 第2次安曇野市生涯学習推進計画改訂版の施策(案)について
- (2) 第2次安曇野市生涯学習推進計画に係る令和4年度施策指標及び成果指標について

【委員】

『日本語教室の開催』について、市内の外国籍住民と講座受講者はどのくらいいるのか。
また、改訂版の計画に新設する理由を教えてください。

【事務局】

外国籍住民は約1,200人である。令和3年度講座受講者は、新型コロナウイルスの影響で開催しなかつた時期もあり、少なくなった。

「安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例」施行に伴うものである。

【委員】

SDGsの目標1「貧困をなくそう」に分類する理由を教えてください。

【事務局】

一般的な健康かつ安全な生活を送ることを目指す趣旨で分類した。

【委員】

「貧困」という表現は、生活的・経済的な問題を抱えている印象を受けてしまう。コミュニケーションをとることで生活ができるのか、そういう風に変えたほうがよいのでは。

指導員には資格があるのか。ボランティアに頼っている印象を受けるが、専門知識を持つ人が指導者となるようにしていくべきではないか。

【事務局】

ある方とない方がいる。専門知識をもつ指導者の登用については、今後検討させていただきたい。

【委員】

『環境フェアの開催』について、ゼロカーボンに関係する市の具体的な課題と対策を教えてください。

【事務局】

今年度中に状況を見てゼロカーボン宣言を行い、第2次環境基本計画の見直しを行いお示ししたい。
補助金を交付してもらいながら、PPA事業という屋根貸し事業をやりたいと考えている。まず、大きな公共施設で当該事業を行い、軌道に乗ったら住宅に普及していきたい。

【委員】

効果をデータで示していかないといけない。市も環境に対し積極的に取り組んでいただきたい。

【事務局】

住民のライフスタイルの見直しも計画に反映させる必要がある。エネルギーが将来的に保証されることは全くなく、例えば50m先でも車で行くような生活は見直すように訴えていかないといけない。

【委員】

『スポーツ指導者講習会の開催』について、指導者の外部委託や地域への移行が検討されているが、市としての方向性を伺いたい。

【事務局】

堀金地域で試行的に取り組んでいる。庁内でPT(プロジェクトチーム)を結成し、基本方針を定め他地区にも広げていく予定である。指導者は、地域の指導者や本市在住の教職員を考えている。現在堀金地区では2名の教職員が意思表示している。

【委員】

部活動の地域移行に関連して、競技団体もクラブ化を考えている。地域移行を進めるにあたり、施設利用、備品、指導者の確保・手当・資質、傷害に関連する保険、ボランティアへの依存など考えなければならない点を示していただきたい。

【事務局】

現状では、スポーツ少年団とスポーツ協会に属するクラブであれば教育委員会として認めていきたい。堀金の場合は、スポネット常念に所属しているクラブも認めていきたい。様々なパターンは出ているが、クラブ化を考えたときに難しい面もあり、保護者を主体としたクラブについても認めていかざるをえない面もある。予算はわかりかねる。

【委員】

保護者を主体としたクラブを認めることについては、県の指針に反する。

【事務局】

そのようなクラブも県内にあり、文部科学省やスポーツ庁の提言から可としている。保護者会の負担から難しい面もあるが、認めないと地域移行ができない種目もあるのではないかと。

【委員】

県の指針を受け、保護者会を中心とした社会体育は廃止を依頼してきた経緯もあり、慎重に検討を進めてほしい。

【事務局】

PTで検討する。

【委員】

『子育て勉強会・育児相談の実施』について、子どもを取り巻く環境については様々な問題がある。勉強会だけでなく、悩みを相談することができる窓口の設置を考えてほしい。また、施策の対応についても理由を示していただきたい。

【事務局】

乳幼児に係る母親の相談は、社会福祉協議会の児童館事業として実施している。事業の充実を図るとともに具体的な事例を挙げたい。

検討する。

【委員】

[冊子『安曇野市生涯学習情報「Link(リンク)」』の発行]について、「Link」の施設案内に美術館・博物館・図書館が掲載されていないのはなぜか。また、サークルの掲載に係る募集は行っているのか。

【事務局】

美術館・博物館・図書館の掲載は、実現できるような方向で考えたい。

募集は広報等で行っている。

【委員】

芸術文化協会は高齢化が進んでいて、廃止となる団体もある。ぜひ、当該団体を通して募集希望の確認をしていただきたい。

【事務局】

貴重な意見として検討する。

【委員】

『地域文化祭の開催』について、目的は参加ではなく活動意欲向上とした方がよいのではないかと。また、地域それぞれの活動を充実するという認識でよいかと。

【事務局】

活動意欲向上を付記する。

個々の文化祭が充実することで市全体が活性化するというもの。総合芸術展も開催するため、修正する。

【委員】

全般的に、アンケート満足度の指標は記載方法を統一したほうがよい。

『スポーツ教室の開催』について、スポーツ大使を活用していただきたい。

『施設連携事業の実施』について、一つのテーマを通じて施設が連携する事業として、指標に学校ミュージアムとギャラリートークリレーが記載されているが、この事業はどんなことを行うのか。

【事務局】

アンケート満足度に係る指標の記載方法と『スポーツ教室の開催』については検討する。

一つのテーマで連携するものとして学校ミュージアムとギャラリートークリレーを挙げている。具体的な事業名を記載することについて検討する。

【委員】

『自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催』について、地域の自主防災会長は任期が終われば交代してしまう。継続してリーダーとして活動できる組織づくりと育成もお願いできれば。

『健康づくり推進員の活動拡充』について、堀金では活動がほとんどない。具体的にはどんな活動を進めていくのか。

不登校の子供の対応はどんな風にお考えか。

【事務局】

区長が兼務しているところもあれば、別々の体制のところもある。仰る通り、役員が終わると継続がなかなかできないという課題はある。知識・経験を活用することができる取り組みを考えていきたい。

施策項目は、成果を活かした地域貢献が目的であり、推進員を対象とした研修を年3回行い地域に還元するというもの。

学校では担任によって家庭訪問や連絡等している。様々な要因があるため、福祉的視点をもったスクールソーシャルワーカーに繋ぎながら定期的な面談会議を実施している。市には教育支援センターがあり、中間教室を受け入れ、社会的経験を積みながら学校へアプローチするなど、今後の生活に伴う社会的自立を育むような支援を行っている。他には、家庭訪問したり登校支援したりしている。

【委員】

『日本語教室の開催』について、SDGsの目標1「貧困をなくそう」を無理に結び付ける必要はない。住み続けられるまちづくりとすればよいのではないか。

環境政策について、安曇野市として幼少期からお年寄りまで口をついて出てくるような言葉をつくることも大事になるのではないか。

『安曇野市コミュニティスクール事業の実施』について、成果指標は関わり数という趣旨のものがよいのではないか。

【事務局】

環境は重要なものとして取り組まないといけない認識でいる。例えば、自然観察会の実施、レッドデータブックの改訂作業、地球温暖化進行の発信など、このような事業を通して市民の皆さんにも関心をもってもらえればと考えている。また、市としては特定外来生物など大変な状況になっていて、新型コロナウイルスの影響により地区の皆さんに活動をお願いできない状況が続いていたが、今年度は改めて活動していただいている。特定外来生物の駆除は、SDGsの目標を達成する一つとなるので、重要な取り組みとしてより浸透するようにやっていきたい。標語は、計画の見直しの中で考えている。危機感だけでなく環境を守ることでよいことがあるという趣旨のことを、基本計画のなかでお示ししていきたい。

紐づけは検討する。指標を学校数に設定した理由は、まずは取り組む学校が増えることを目標にした方がよいと判断したためである。

【委員】

『災害時福祉避難スペース設置訓練』について、地区単位で訓練が行えるような方法をとったらどうか。

【事務局】

市の総合防災訓練と避難所開設運営訓練に合わせ実施している。

避難所開設運営訓練は昨年度から危機管理課中心に各地域で行っていて、その訓練に併せ行っている。まずは各地域で実施していくなかで、もう少し小さい単位での実施を検討したい。

【委員】

『子どもの読書活動の推進』と『ブックスタート・セカンドブック事業の実施』に関連して、具体的にどんなことをやるのか。

『スポーツ教室の開催』について、松本山雅に限定した文言はいかがなものか。

『青少年体験事業の実施』について、どんな事業を想定しているのか。

『学芸員研修会の開催』について、給料等の待遇をよくするなど学芸員の地位向上が必要か。

『人権に関する講座の開催』について、生涯学習課と人権共生課で連携して人権教育を推進していただきたい。

【事務局】

『子どもの読書活動の推進』について、環境づくりが大切だと思っている。ハードの整備は済んでいるが、読書活動のよりよい環境をつくることを目的として推進している。今回の改訂では、誰もが読書活動ができるように、多言語で書かれた資料・展示・LLブックなどの収集と提供を付け加えた。『ブックスタート・セカンドブック事業の実施』について、ブック・スタートは4か月検診時、セカンド・ブックは2歳児検診時に健康支援センターに伺って本をプレゼントしている。子どもと親が本を介してコミュニケーションを習慣づけていくことを目的として開催してきた。新型コロナウイルスの影響で難しいが、相談を受けながら読み聞かせをその場でやるようにしたい。サードブックはいずれ考えていかなければならないこととして、始めたばかりのセカンドブックを充実して100%親子に渡していけるように努力していきたい。

検討する。

主に小学生を対象として夏休みの体験講座や親子プログラミング教室などを企画している。この夏休みにはペットボトルロケット、茶道、手作り石けんなどの講座を設け好評だった。小学生に限らず、上の年代も対象に協調性や自立心を学ぶ機会として企画していければ。

専門職全般に関わる全国的な問題で市全体の問題でもある。継続して検討していきたい。

連携して取り組んでまいりたい。

【委員】

市の施策を知らない方が多い。広報誌以外にも、もっと多くの人に広報し参加につなげてほしい。

公民館活動について、高齢化が進む地域では交通手段を確保することが難しいため、考えていかないといけない。

【事務局】

HPやtwitterなどにより広報しており、さらに努力はしていく。

地区公民館で講座を開催することを目指していきたい。